

令和 6 年 5 月 22 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01333

研究課題名（和文）定性的・量的手法によるアメリカ人民党の再検証：パラノイアか、民主主義の改革か

研究課題名（英文）Re-examining the People's Party through Qualitative and Quantitative Methods

研究代表者

西川 賢（Nishikawa, Masaru）

津田塾大学・学芸学部・教授

研究者番号：10567390

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究プロジェクトの具体的な成果としては、19世紀の人民党から出馬した大統領候補全員の文書データ、残存する人民党議員の文書データ、民主党・共和党の大統領候補の選挙文書の全データ、そして社会党のユージン・デブスの文書データの全てを収集することができた。このような網羅的なコーパスはアメリカにも存在しない。加えて、19世紀アメリカ人民党に関する先行研究を整理し、研究課題を抽出した。それを予備的なテキスト分析で分析した本研究の予備的成果を書き上げ、アメリカ政治学会のプレプリント・サーバーにアップした。それをもとにSPSA、MPSA、APSAといった国際学会で報告し、専門家から有益なコメントを得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は19世紀の人民党がアメリカ民主主義の革新者だったのか、それとも民主主義の攪乱者だったのかという論争について、新角度から研究するものである。近年のアメリカでは、ポピュリズムの台頭とそれがアメリカ民主主義に与える（悪）影響が様々に議論される。長年の論争に一石を投じることを通じて、本研究は最近のポピュリズムをめぐる議論にも貢献する。また、現代政治分析の枠組みを用いる研究であるため、他時代・他地域のポピュリズムとの比較も可能であり、比較政治研究としてのインパクトも大きい。ポピュリズムが現実政治に与える影響が議論される現在、本研究で得られる知見は現実政治分析・政策形成への波及効果も期待される。

研究成果の概要（英文）：As a result of this research project, we successfully collected comprehensive document data for all the presidential candidates from the People's Party in the 19th century, as well as for other members of the People's Party. Additionally, we gathered election documents for Democratic and Republican presidential candidates and the document data for Eugene V. Debs of the Socialist Party. Such an extensive corpus is unprecedented even in the United States. Furthermore, I organized previous research on the 19th-century American People's Party and identified key research questions. I documented the preliminary findings of my study, conducted an initial textual analysis, and uploaded the results to the preprint server of the American Political Science Association. These findings were also presented at international conferences such as SPSA, MPMSA, and APSA, where we received valuable feedback from various notable experts.

研究分野：政治学

キーワード：ポピュリズム テキスト分析 アメリカ政治 民主主義 人民党 アメリカ大統領選挙 コーパス

1. 研究開始当初の背景

近年、ポピュリズムに関する社会的・学術的関心が増し、ポピュリズムに関する研究が数多く生みだされている。この背景には、「民主主義が世界で後退・衰退しており、ポピュリズムがその一因をなしているのではないか」という問題意識がある（水島治郎 2016; 吉田徹 2016; Diamond 2015: 153; Foa and Mounk 2016; Mounk and Foa 2018）。

ポピュリズムに関する地域ごとの実証研究は数多くなされており、多国間比較研究も増加している。ポピュリズムを研究することは学術的必要性のみならず、現実的要請からも政治学の喫緊の課題の一つになっている。現在の政治学におけるポピュリズム研究には、次節に示す複数のアプローチが併存している（Canovan 1981; Mudde 2018; Bonikowski, et.al., 2018）。

(1) **思想的アプローチ**：運動のモメントとしてのポピュリズムに注目し、その意義や価値を哲学的に問うアプローチ。Laclau 2005、Mouffe 2018 など。

(2) **構造的アプローチ**：ポピュリズムをファン・ペロンやジェットウリオ・ヴァルガスなど、「強いリーダー」に指導され、特定の階層と連携することで成立する支配体制とみるアプローチ。Cardoso and Feletto 1979 など。

(3) **経済的アプローチ**：インフレ抑制と金融破綻回避を重視し、経済成長と所得配分を優先する経済政策をポピュリズム（的）とみるもの。Dornbush and Edwards 1991、Acemoglu, Egorov, and Sonin 2013 など。

(4) **言説的アプローチ**：政治指導者が未組織の有権者を自らの支持基盤層として組織化する際の言説に注目するアプローチ。Weyland 2001、Barr 2007 など。

(5) **観念的アプローチ**：ポピュリズムを二元論的（「純粋な人民」Vs「悪しきエリート」）だが「中核のないイデオロギー」（Thin-Centered Ideology）と定義し、リーダーによる支持層へのアプローチと支持層がリーダーに抱く態度の双方を分析するアプローチ。Mudde and Kaltwasser 2017、Hawkins and Kaltwasser 2019、Geurkink et.al., 2019、Akkerman, et.al., 2013、Donovan and Redlawsk 2018 など。

上記のアプローチは、多くの理論研究・実証研究を生み出してきた。研究代表者も「観念的アプローチ」に依拠して日本のポピュリズムに関する応用研究を行い、国際誌に論文が掲載されるなど、多くの業績をあげた。これらの研究は現代の欧州やアジアを中心とする比較研究が多く、アメリカへの応用研究はほぼ皆無である。

ここで、『アメリカの「ポピュリズム」』というとき、それが農業不況に端を発する経済恐慌に不満を抱いた農民・労働者が中心となって結成した、「人民党」（People's Party：1891年結成、1908年消滅）という政党とその支持者を指す固有名詞・歴史的用語であったことに留意せねばならない（Szasz 1982: 191-193; Judis 2016: 22）。これは、前節で見た、現代政治学において分析概念として用いられている「ポピュリズム」とは異なる（Lasch 1991; Grattan 2016; Kazin 2017）。

人民党は1892年、1896年、1900年、1904年、1908年に大統領候補を擁立して国政に進出、4人の連邦下院議員と4人の連邦上院議員を当選させ、ごく短期間、勢力を誇った。人民党は歴史学者（政治学者）の研究対象となり、学術上の論争を生んできた。グッドウィンなど、歴史学者の多くは人民党を「貧農や労働者など、持たざる者の利益を代弁した、アメリカ民主主義の刷新者」と解している。なぜなら、大企業への規制や予備選挙導入など、人民党が提示した改革案は二大政党に取り込まれ、実現されたからである（Goodwyn 1976: xxv, 543; Postel 2010: vii-7; Pollack 1962; Hicks 1931; Woodward 1938; McMath 1976; Nugent 1963）。

対して、政治史家ホフスタッターなどは、人民党を「アメリカ民主主義のパラノイア」的存在だったと批判する。ホフスタッターは人民党を「復古主義」とみなし、反ユダヤ主義・排外主義・人種差別・陰謀論に特徴づけられたものだったと結論付けた（Hofstadter 1955: 4-5; Hackney 1969; Green 1978; Hodges 2015; Hart 2020）。

研究代表者はアメリカのポピュリズムに関する先行研究の整理も行ってきたが、近年の研究はドナルド・トランプやバーニー・サンダースなど、現代の事例に特化しており（Adams 2017; Levistky and Ziblatt 2019; Norris and Inglehart 2019; Nai et.al. 2019; Beland 2019）歴史上のアメリカのポピュリズムに関する政治学的研究は空白のままであることに気づいた。19世紀アメリカにおけるポピュリストとはどのような存在だったのだろうか。この疑問は、歴史学の手法による個別的事例の事実追究だけでは解答不能であろう。現代政治学におけるポピュリズム分析のアプローチを導入し、分析の視点を刷新することで、この疑問を解かねばならない。これが研究開始当初の本プロジェクトの背景をなす問題意識であった。

2. 研究の目的

ポピュリズムに関する現代政治学の分析アプローチを19世紀アメリカのポピュリズム（人民党）に応用し、テキスト分析や事例研究などの手法を多角的に組み合わせて実証する。これによ

り、人民党の性質に関する先行研究の知見とは異なる形で、アメリカ型ポピュリズムの特徴を解明することが本研究の目的であった。

3. 研究の方法

ポピュリズムに関する現代政治学の分析アプローチを 19 世紀アメリカのポピュリズム（人民党）に応用し、古文書のデータを網羅的に収集し、それをテキスト分析で分析する。さらに、事例研究などの手法を多角的に組み合わせて実証する。これが本研究の方法である。これにより、人民党の本質に関する先行研究の知見を覆し、アメリカ型ポピュリズムの特徴を新たに解明することが本研究の目的であった。

4. 研究成果

19 世紀アメリカ合衆国には、「人民党」という政党が存在した。先行研究は、同党がアメリカ民主主義を劣化させたのか否かという説を巡って対立してきた。本研究では、テキスト分析と事例研究を組み合わせる手法で人民党の政治家を包括的に研究することで、先行研究の見解を再検討し、新たな知見を見出すことを目指してきた。

【研究初年度】

2021 年には、以下のような成果を得た。まず、19 世紀アメリカ人民党に関する先行研究を整理し、研究課題を抽出、それを予備的なテキスト分析で分析した本研究の予備的成果である、"How Populistic were the Populists in the 19th Century America?: Analysis by Automated Textual Analysis." を書き上げ、American Political Science Association のプレプリント・サーバーである APSA プレプリントにアップし、フィードバックを募った (doi: 10.33774/apsa-2021-zlmp8)。そのうえで、Southern Political Science Association、Western Political Science Association、Midwest Political Science Association、American Political Science Association という、有力な四つのアメリカの政治学会で報告し、Aaron Stuvland、David Alexander Bateman といった専門家や聴衆から、数多くの非常に有益なコメントを得た。

以上のフィードバックをもとに、データを完全に収集して分析を完成させ、プレプリントの論文を投稿に至るクオリティに改善すべく、鋭意努力を続けた。研究対象のデータ（19 世紀アメリカの人民党及び民主党、共和党、社会党の大統領候補者）を電子公開しているアーカイブスから順次すべてダウンロードしたうえで、PDF 化・OCR 化して分析用のデータを構築する作業を進めた。データが大量にのぼるため、処理に非常に手間取った。さらに、関連する公刊文書のデータの収集も進めており、こちらもデータ構築を進めたが、折からのコロナ渦にあって、一部の公刊文書はコロナの影響で刊行が大幅に遅れた。いまでも公刊を待っている文書さえある。さらに、渡米の上で訪問しようと考えていたアーカイブスにはコロナの影響で初年度・二年目には結局訪問できなかった。

関連する先行研究を収集・読破し、APSA プレプリントに公開されたワーキングペーパーに加筆し、今年度以降の国際学会での報告に備えて準備を進めたが、応募した国際学会にはリジェクトされてしまった。データを完全に整備の上、できる限り早急にワーキングペーパーを公刊できる態勢にまで移行させるべく努力した。

【研究二年目】

初年度の国際学会での報告時に手法に関する質問を多く受けたため、新しい分析手法、具体的には機械学習を応用したテキストデータの分析手法の習得と応用の必要性を痛感した。そこで、二年目である 2022 年度には計算社会学会、東京大学社会科学研究所、チューリヒ工科大学、IC2S2、PolNet など、自然言語処理や計算社会科学、ネットワーク分析の学会、研究会合、セミナーに積極的に参加し、ハンズオンセミナーで分析手法のクラスを受講するなど、新しい手法を適用する準備を順調に進めてきた。

【研究三年目】

二年間で集めてきた人民党政治家（Weaver, Bryan, Baker, Watson, Allen, Cannon, Kem, Peffer）、共和党・民主党政治家（Taft, Parker, Theodore Roosevelt, McKinley, Harrison, Cleveland）、社会党政治家（Debbs）などの文書資料に加えて、最終年度である 2023 年には現地調査をコロナ後によりやく再開することができて、米国議会図書館にある Alton B. Parker Papers を収集し、19 世紀アメリカのポピュリズム政治家の言説分析に必要な文書類の収集をほぼ終えた。

それらの文書を電子データ化して、早急に計量テキスト分析を行うつもりであったが、文書を電子化すると OCR 加工した際に大幅に文字化けしたり、文字を認識しないことが判明したため、それらを修正する、極めて膨大な作業が必要となった。クラウドワークスを通じたヒューマンコンピューターションと生成 AI による修正作業でそれを進めたが、この作業にほとんどの時間を費やさざるを得なかった。研究期間終了後も収集したデータを加工する作業を続けて、論文化でき

るようにデータベースの完成を目指して研究を継続していきたい。

具体的な成果としては、19世紀の人民党から出た大統領候補全員の文書データ、残存する人民党議員の文書データ、民主党・共和党の大統領候補の選挙文書の全データ、そして社会党のユジン・デブスの文書データの全てを収集することができた点を強調しておきたい。これだけ網羅的なコーパス・データは米国にさえも存在しない。このデータの整備が終わり、これを使って論文を作成した後には、著作権に問題がないかどうかを確認の上、共有財産としてこのデータを一般公開したいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Miyazaki Kunihiro, Murayama Taichi, Matsui Akira, Nishikawa Masaru, Uchiba Takayuki, Kwak Haewoon, An Jisun	4. 巻 2023
2. 論文標題 Political Honeymoon Effect on Social Media: Characterizing Social Media Reaction to the Changes of Prime Minister in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the 15th ACM Web Science Conference 2023	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1145/3578503.3583594	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Cheng John W., Nishikawa Masaru	4. 巻 37
2. 論文標題 Effects of Health Literacy in the Fight Against the COVID-19 Infodemic: The Case of Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Health Communication	6. 最初と最後の頁 1520 ~ 1533
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/10410236.2022.2065745	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kunihiro Miyazaki, Taichi Murayama, Akira Matsui, Masaru Nishikawa, Takayuki Uchiba, Haewoon Kwak, Jisun An	4. 巻 -
2. 論文標題 Political Honeymoon Effect on Social Media: Characterizing Social Media Reaction to the Changes of Prime Minister in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 arXiv (non-peer reviewed pre-print)	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Masaru Nishikawa	4. 巻 28
2. 論文標題 Presidency of Donald Trump and American Democracy: Populist Messages, Political Sectarianism, and Negative Partisanship	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Review	6. 最初と最後の頁 80 ~ 97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13439006.2021.1921360	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Masaru Nishikawa	4. 巻 -
2. 論文標題 How Populistic were the Populists in 19th Century America?: Analysis by Automated Textual Analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 APSA Preprint	6. 最初と最後の頁 1~17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.33774/apsa-2021-zImp8	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計13件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 John William Cheng , Masaru Nishikawa
2. 発表標題 "Health Literacy: A Vaccine for the COVID-19 Infodemic?"
3. 学会等名 情報通信学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西川賢
2. 発表標題 「アメリカ政治における政治的分極化」
3. 学会等名 第12回横幹連合コンファレンス
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa, Akira Matsui, Daisuke Sakai
2. 発表標題 "Migdal Babel of English: Career Trajectory of Political Scientists' Publication in the First and Second Language."
3. 学会等名 The Japanese Society for Quantitative Political Science (JSQPS), 2023 Summer Meeting Program, June 24, 2023, Fukuoka University, Japan. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 John. W. Cheng, Masaru Nishikawa, Ikuma Ogura, Nicholas A. R. Fraser
2. 発表標題 "Willingness to pay for online conspiracy theory media content: A case study of Japan."
3. 学会等名 2023年度春季（第48回）情報通信学会大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa, Daisuke Sakai, Akira Matsui
2. 発表標題 "Career Trajectory of Political Scientists' Publication in the First and Second Language: Japan as an example of internationalization of political science, 1971-2023."
3. 学会等名 the Japan Politics Online Seminar Series, October 27, 2023, Online. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 John W. Cheng, Masaru Nishikawa, Vimala Balakrishnan
2. 発表標題 "Sentiments of Online Anti-Vaccination Endorsements: A Case Study of Amazon Japan."
3. 学会等名 The 16th International Telecommunications Society Asia-Pacific Regional Conference (ITS Asia-Pacific 2023), November 27, 2023, Bangkok, Thailand. (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西川賢、酒井大輔、松井暉
2. 発表標題 "The Impact of the Internationalization of Political Science on Publishing in Two Languages: The Case of Japan, 1971-2023."
3. 学会等名 第1回 Science of science研究会・東京大学伊藤国際学術研究センター
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 John. W. Cheng, Masaru Nishikawa
2. 発表標題 "Sentiment of COVID-19 conspiracy theory and anti-vaccine endorsements: A text analysis of book reviews on Amazon Japan."
3. 学会等名 情報通信学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa, Akira Matsui, Daisuke Sakai
2. 発表標題 "Science of Science on the Publications of Japanese Political Scientists."
3. 学会等名 計算社会科学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa
2. 発表標題 "How Populistic were the Populists in the 19th Century America?: Analysis by Automated Textual Analysis."
3. 学会等名 Southern Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa
2. 発表標題 "How Populistic were the Populists in the 19th Century America?: Analysis by Automated Textual Analysis."
3. 学会等名 Western Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa
2. 発表標題 "How Populistic were the Populists in the 19th Century America?: Analysis by Automated Textual Analysis."
3. 学会等名 Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa
2. 発表標題 "How Populistic were the Populists in the 19th Century America?: Analysis by Automated Textual Analysis."
3. 学会等名 American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 西川 賢	4. 発行年 2024年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 208
3. 書名 社会科学研究者のためのデジタル研究ツール活用術：アプリ・デバイスから生成AIまで、生産性をあげる アカデミック・ライフハック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------